



日本伝統治療（柔道整復術）普及事業活動報告



事業の実施成果（要約）

平成18年度には日本 NGO 支援無償資金協力（外務省 ODA ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index.html>）を得て、モンゴル健康科学大学講義並びにモンゴル国医師卒後研修、ナーダム祭障害調査・救護トレーナー活動を7月、11月、3月の3回に渡り活動を行いました。

上記の日本伝統治療（柔道整復術）普及事業は①貧困・無医村地域に実用的治療の普及②伝統医療普及とスポーツを通じた青少年健全育成を目的としました。

専門家派遣（A）は医師卒後研修ならびにモンゴル健康科学大学医学部の2カ所で講義を実施しました。専門家派遣（B）はナーダム祭における傷害調査並びにスポーツ現場における実地指導を行いました。

今回の活動（具体的には現地医師達に、現地調達可能なものを用いた固定材料作成、外見変形や受傷機転から考えられる骨折、脱臼、打撲、捻挫などの鑑別、診断・整復技術をお伝えして参りました）は、多くの医師達の高い評価を頂いております。



モンゴル国医師卒後研修 実習風景



モンゴル健康科学大学 講義風景

大学講義は将来の指導者となる学生に対して、我々の柔道整復術が持つ武医同術の根幹である精神の部分に重点置き教育・実技指導を行ったことに大学側より高い評価を頂いております。

3回の実施で期待していた以上の成果を得ることができ、アンケート調査結果より彼らはもっと多くのことを我々から学びたがっております。また、医療環境の厳しさと、彼らの熱心さを目の当たりにし、このプロジェクトは今後も継続的に行なわれるべき事業と確信いたします。

大学側からの別紙要望書に記載されているとおり、自立発展に向けて、本年度も継続して人材育成並びに青少年の健全育成にも役立つ、日本伝統治療（柔道整復術）普及事業は草の根活動としてモンゴル国民健康医療だけでなく“国づくり”にも貢献しております。